

# バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

## Interview ①

株式会社スリー・ディー・マトリックス（事業開発部マネージャー）

山本 直毅



出身大学・卒業年度：横浜市立大学大学院総合理学研究科 2006年3月 博士後期課程修了  
博士論文タイトル：単一構造の複合型シアリル糖鎖を有するシアリル糖鎖ペプチドの合成

### 「現在の仕事について」

#### ◆担当職務

新規開発案件立案，開発品プロジェクトマネジメント，  
原材料調達・外注先管理，治験推進業務

#### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

・2006～2009年 大塚化学探索研究所所属。東京大学サテライトラボへ出向（東京大学菅裕明教授研究室所属）し，企業の既存事業にとらわれない新規テーマに従事。進化分子工学的手法を用いた酵素機能の改変・新規酵素創生。

・2009～2012年 大塚化学子会社 American Peptide Company 駐在（カリフォルニア州）。当時研究所で開発していた糖鎖関連技術を発展させるため，ペプチド受託メーカーである American Peptide Company 駐在となり，技術移管，GMP 製造などに従事するとともに，関連業界の情報収集，ネットワークングを行う。

・2012～2014年 株式会社糖鎖工学研究所所属。大塚化学から独立したベンチャー企業にて，糖鎖関連技術を用いた新規事業開発に従事する。

・2015～2016年 Brand Institute, Inc. の日本オフィス代表として，医薬品・医療機器などのブランド開発，一般名開発のコンサルティングを行う。プロジェクトマネジメントだけでなく，オフィスマネジメントを経験。

・2017年～現在 株式会社スリー・ディー・マトリックス事業開発部に所属し，自己組織化ペプチド技術をコアとした新規製品開発および治験業務などに従事。

#### ◆そこでのやりがい

ライフサイエンス業界に一貫して携わることで，業務内容に幅を持たせつつ自分自身の経験，知識，人脈を最大限活用できることが面白い。

#### ◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

ベンチャー企業であるため，個々人がカバーする業務範

囲は必然的に広くなり，自分自身の可能性を広げられることと，経験したことがない業務であっても，積極的に挑戦できる環境が魅力です。

#### ◆現在の就職を決めた理由

ペプチドという素材には大きな可能性が秘められていると信じており，現職であればいち早く世に役立つ製品開発に携わることができると感じたことが一番大きな理由。

#### ◆将来設計・挑戦したいと思っていること

新規技術をベースとした事業立ち上げ請負人となって，新規産業創出に寄与したい。

まずは，過剰となっている体重を 10 kg 落とすことが当面の目標です。

#### ◆社会人として一番感動したこと

社員として働くようになってから，学生時代の指導教官の厳しい指導が役立っていると感じたこと。先生ってやっぱりすごいんだなと感動。

#### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

幅広い年齢層，さまざまな思考回路を持つ関係者のなかで，自分のやりたいことを実現させること。利害関係や，個々の性格など事前の情報収集が Key であり，人を上手に巻き込み動かすことで，何とか自分のやりたいことを実現できつつある。正直今でも人を動かすことが一番難しいと感じています。

#### ◆仕事のプロになるコツ

自分で考え，最後まで責任を持つ。人のせいにはしない。そして，とことん楽しむ。

#### ◆博士力，どこで発揮していますか？

限られた時間で最大限のアウトプット出すというマインドセットと論理的思考は，どの業務を遂行するうえでも役立っています。

## 「人生について」

### ◆何のために働くのですか？

自分の興味・好奇心を満たすためと世に役立つものを作るため

### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

深く考えていません。良い仕事をしていればお金はいつか入ってくると信じて。

### ◆ワークライフバランスで工夫していること

アウトプットを常に意識して、仕事の生産効率を最大化することで、家族との時間をできるだけとるようにしています（妻にはまだまだ足りていないと言われていています）。

### ◆現在の夢と将来の展望

自分で技術発掘から事業を立ち上げる活動をしていく傍らで、日本にこだわらないライフスタイルを模索していきたい。

## 「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること  
色々な人種・価値観が違う人と接すること。これからは日本という枠ではなく、地球規模で生きていくことが求められています。ぜひ自分でコントロールできる時間がたくさんある学生時代に、海外旅行でもなんでも良いので日本ではないところに行ってみてください。私は修士2年の時に学会発表で初めて海外に行きましたが、もっと早くから海外に行けばよかったと今でも思っています。

### ◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

常に主役は自分です。自分がやりたいことをやってください。人の目を気にする必要はありません。そのかわり、自分で選んだらとことんやってください。人生楽しんでもの勝ちですよ！

連絡先 E-mail: nyamamoto@3d-matrix.co.jp

## Interview ②

国立研究開発法人産業技術総合研究所 (postdoctoral fellows)

金 世怜

出身大学・卒業年度：東北大学大学院農学研究科 生物産業創成科学専攻 2014年9月 博士学位取得

博士論文タイトル：Evaluation of substrate transport activity mediated by L-alanine exporter AlaE in *Escherichia coli*



## 「現在の仕事について」

### ◆担当職務

日本発新規ゲノム編集技術の研究開発

### ◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

・2015～2017年 韓国食品医薬品安全庁にて国内流通農水産物の安全点検

・2017年～現在 博士課程で勉強した分子生物学的知識を活用して世界的に注目されているゲノム編集技術の新しい扉を開くための研究に挑戦している。

### ◆そこでのやりがい

これまでさまざまな分野の研究を経験してきたにもかかわらず、新たな領域である植物を利用した研究をしている。新たな分野でのプロジェクトを成功させるために、植物について勉強をしながら実験を行っている。私の新たな経験値があがって、より広い分野をカバーできる研究者にさらに近付いていることを感じる。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力  
学校での必須業務の授業および生徒指導などの業務がないため、自らの研究に時間をより集中的に投資することができる。

### ◆現在の就職を決めた理由

韓国の職場では、組織改編による人事異動などで、私が修士と博士過程で勉強した内容とは関連のない仕事が与えられ、改善させる方法が見えなかったので転職を決めた。新しい職場の条件は専攻分野を生かして働けることを最優先に考え、全世界を舞台に働けるところを探した結果、現在の職場でなら私の専攻分野を積極的に活用できると判断したため、働くことを決定した。

### ◆社会人として一番感動したこと

「君がいなくてこの仕事をしてくれる人が誰もいない」という話を職場の上司から聞いた時

### ◆社会人として一番困難だったこと&どう乗り越えましたか

韓国であれ日本であれ、職場内では色々な人たちと一緒に

に仕事をしなければならぬため、円滑なコミュニケーションがとれないと仕事がまともに行われないケースが発生する。この時、私の状況だけを一方的に主張せず、<sup>ヨクジサジ</sup>易地思之（立場を変えて考えること）を通じて人の立場と意見を理解してまとめる努力をすれば、より良い方向で展開されることができる。

#### ◆仕事のプロになるコツ

新しい技術や知識を開かれた心で受け入れ、自分のものに変えてからそれを仕事に適用できる能力を育てなければならない。

#### ◆博士力、どこで発揮していますか？

韓国と日本で修士と博士および研究所を経て、さまざまなスペクトルの研究課題を経験したおかげで、現在行われているいくつかのプロジェクトを同時にコントロールすることができる。

### 「人生について」

#### ◆何のために働くのですか？

自分の発展のために。また、私によって、世界が変化できたらいいという希望のために働いている。

#### ◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

自分の労働の対価として受け取るお金は、私が責任感を

持って仕事をするように覚醒させるし、現在と未来の肉体的、精神的に健康な生活を享受するための必要条件であると思う。

#### ◆ワークライフバランスで工夫していること

仕事とプライベートの領域を明確に区分して、職場では集中して働いて、仕事をしない時には充分休むことができる生活パターンを作ろうと努力している。

#### ◆将来の展望

余裕を持って施すこと知っている人になりたい。10年後も私が必要とされるところで忙しく働きながら暮らしたい。

### 「後輩へ」

#### ◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

社会生活をしてみると、理性的な判断より感性的なアプローチが状況解決をさらによくしてくれる場合がある。したがって、学生時代に一人で勉強ばかりしないで、さまざまな分野の人たちと付き合いながら、コミュニケーション能力を育成することで、円満な社会生活をするのに大きく役立つものとする。

---

連絡先 E-mail: seriong0103@gmail.com